

# 東北地方における都市の機能的性格

横 山 弘

## 1) 序

東北地方の都市は我国の都市の中で、どんな性格をもっているか、機能的面からその性格を把握しようとした。職業構成から東北地方の都市を考察した能教授の研究<sup>(1)</sup>があり、職業構成と都市規模との関係、都市のhierarchyについて明らかにしたが、筆者は職業構成の比率から都市の類型化を試みた。そして、各地方の都市の類型分布の比較から東北地方の都市の機能的性格を明らかにしようとした。資料は1965年の国勢調査によった。

## 2) 都市の職業構成の類型

全国の都市(市制施行地)の職業別人口の平均値は才1次産業比率が13.30%で、そのうち農業が12.35%、林業・狩猟業が0.18%、漁業・水産養殖業が0.77%である。才2次産業比率は37.00%で、そのうち、鉱業は0.51%、建設業と製造業を合わせて36.49%である。才3次産業比率は49.61%で、そのうち、卸小売業とサービス業を合わせて35.73%、金融・保険・不動産業・運輸通信業・電気・ガス・水道業・公務を合わせて13.88%である。この全国都市の平均を越えている業種を、その都市機能の偏異的性格と見た。才1次産業が15%以上のものを才1次産業型の都市とし、才2次産業が40%以上の都市を才2次産業型の都市、才3次産業が50%以上の都市を才3次産業型の都市とした。才1次産業型のうち、農業が12.35%以上の都市を農業型、林業・狩猟業が0.18%以上の都市を林業型(該当する都市なし)、漁業・水産養殖業が0.77%以上の都市を水産業型とする。

才2次産業型のうち、鉱業が0.51%以上の都市を鉱業型、建設業・製造業が36.49%以上の都市を工業型とする。

才3次産業型の都市のうち、卸小売・サービス業が35.73%以上の都市を商業サービス型、金融・保険・運輸・通信・電気・ガス・水道業・公務が13.88%を越える都市を管理公務型とする。

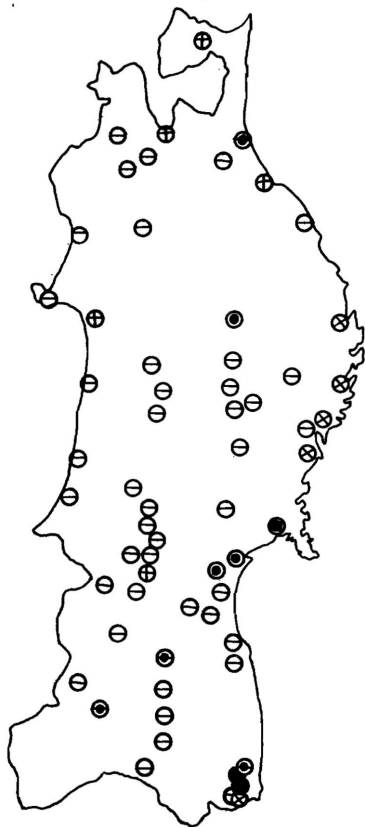
才1次産業が15%以上で、才2次産業も40%以上の都市を才1才2次混合型の都市とし、その中で農業と鉱業の比率が平均より高い都市を鉱業農業混合型とする。また農業と建設製造業の比率の高い都市を工業農業混合型、水産業と建設製造業の比率の高い都市を工業水産業混合型とする。

才1次産業が15%以上で、才3次産業も50%以上の都市のうち、農業と商業サービスが

図 1

東北地方の都市の

機能類型分布図



○ 農業型

⊕ 管理農業混合型

◎ 商業サービス型

⊗ 商業水産業混合型

⊕ 商業農業混合型

● 鉱業型

⊗ 水産業型

平均より高い都市を商業農業混合型とする。また、水産業と商業の比率の高い都市を商業水産業混合型、農業と金融・保険・不動産業・運輸通信業・電気・ガス・水道業・公務が高い都市を管理水産業混合型とする。

才2次産業が40%以上で、才3次産業も50%以上の都市のうち、商業と建設製造業の比率が平均より高い都市を商業工業混合型、建設製造業と金融・保険・公務の高い都市を管理工業混合型とする。全国の市制施行地を以上の類型によって分類すると、次の15の型になる。

1. 農業型      2. 水産業型
3. 鉱業型      4. 工業型      5. 商業サービス型
6. 管理公務型
7. 鉱業農業混合型      8. 工業農業混合型
9. 工業水産業混合型
10. 商業農業混合型      11. 商業水産業混合型
12. 管理農業混合型
13. 管理水産業混合型
14. 商業工業混合型      15. 管理工業混合型

3) 各地方毎の都市の類型分布

前述の15の類型の都市がどのような分布をなしているか。南九州地方では農業型が27市(79%)、工業型が2市(6%)

商業サービス型が2市(6%)、鉱業農業混合型1市(3%)、商業農業混合型2市(6%)となっており農業型が圧倒的に多いことを示している。北九州地方では農業型が25市(61%)、鉱業型が4市(10%)、商業サービス型が6市(15%)、管理公務型が1市(2%)、商業農業混合型が2市(5%)、管理農業混合型が2市(5%)、管理工業混合型1市(2%)となっている。南九州地方とくらべて農業型は少ないが、商業サービス型が多くなっている。

北九州の炭田に立地する都市の鉱業型が多いのも特色である。四国地方では農業型が19市（65%）、工業型が1市（4%）、商業サービス型が2市（7%）、工業農業混合型が3市（10%）、商業農業混合型が2市（7%）、管理農業混合型が2市（7%）となっている。農業型は北九州より若干多いが、南九州よりは少ない。工業農業混合型及び工業型が比較的多いことは瀬戸内に面した都市の工業化が進められたことによる。山陰地方の都市は農業型が8市（67%）、商業農業混合型が4市（33%）で、農業的色彩のつよい都市からなっている。山陽地方の都市は全く逆で農業型が14市（38%）、工業型が6市（15%）、商業サービス型が2市（5%）、管理公務型が2市（5%）、鉱業農業混合型が2市（5%）、工業農業混合型が8市（22%）、商業農業混合型2市（5%）、管理農業混合型が1市（3%）となっており、種類が多いことと、農業型が少ない反面工業型及び工業農業混合型が多い特色を示している。近畿地方の都市は農業型31市（36%）、水産業型1市（1%）、工業型34市（39%）、商業サービス型6市（7%）、管理公務型5市（6%）、工業農業混合型3市（3%）、管理農業混合型3市（3%）、管理農業混合型1市（1%）、管理水産業混合型1市（1%）、商業工業混合型3市（3%）、管理工業混合型が2市（2%）となっており、この地方も種類が多く、工業型がどの地方よりも多いことが特色である。次に中部地方の東海側（長野を含む）では農業型が31市（39%）、水産業型が1市（1%）、工業型が16市（20%）、商業サービス型が7市（9%）、工業農業混合型が19市（24%）、商業農業混合型が1市（1%）、管理農業混合型が3市（4%）、管理工業混合型が1市（1%）となっており、工業農業混合型がどの地方よりも多く、工業型も高い比率を示して工業的色彩のつよい都市の多い事を示している。それに対して北陸側は農業型が30市（70%）、商業サービス型が3市（7%）、工業農業混合型が8市（19%）、商業農業混合型が1市（2%）、管理農業混合型が1市（2%）となっており、農業型が高率を示している。それでも工業農業混合型が次いで多いことは戦後の工場誘致の結果である。関東地方は最も種類が多い。すなわち、農業型は53市（49%）、水産業型1市（1%）、工業型16市（15%）、商業サービス型が7市（6%）、管理公務型が10市（9%）、鉱業農業混合型が1市（1%）、工業農業混合型6市（5%）、商業農業混合型が3市（3%）、管理農業混合型が2市（2%）、商業工業混合型3市（3%）、管理工業混合型が7市（6%）となっている。ここでも工業的色彩のつよい都市が多いことがわかる。

東北地方は農業型が42市（68%）、水産業型が5市（8%）、鉱業型が2市（3%）、商業サービス型が3市（5%）、商業農業混合型が4市（6%）、商業水産業混合型が1市（2%）、管理農業混合型が5市（8%）となっており、農業型が高い比率を示している。水産業型が比較的高いのも特色である。その反面工業的色彩が弱く、工業型の都市が1つもなく、

工業との混合型も見られないのは東北地方の都市の特色である。

北海道地方は東北地方とは異ったタイプを示している。すなわち、農業型が7市(25%)、水産業型が1市(3%)、鉱業型が4市(14%)、商業サービス型が5市(18%)、管理公務型が5市(18%)、鉱業農業混合型が1市(3%)、管理農業混合型が2市(7%)、管理水産業混合型が1市(3%)となっており、農業型が非常に少なく、管理公務的機能の強い都市が比較的多いことを示している。

#### 4) 東北地方の都市の特色

各地方毎の都市の機能的類型の分布を東北地方のそれと比較してみると、東北地方は南九州北陸地方に次いで農業型の都市が多い。それに水産業型を合せると、才1次産業型の都市は東北地方において76%を占めており、南九州に次いで多い。才2の特色は、東北地方には工業型及び工業を含む混合型の都市が1つもないことである。他の地方では山陰地方を除いて、多少なりとも工業型及び工業を含む混合型の都市をもっている。

東北地方の都市の機能的類型分布<sup>(図1)</sup>を見ると、商業サービス型が奥羽山脈の東側に偏在し、北出川河谷平野の中心である盛岡と仙台平野の中心仙台と塩釜の3市のみである。水産業型が三陸海岸に並んで三陸漁場と結合しているが、工業的色彩をもつ宮古<sup>(2)</sup>、釜石<sup>(3)</sup>、大船渡なども全国平均から見ると才2次産業の比率が低く、工業型に入れることは出来ない。仙台と盛岡以外の県庁所在地は管理農業混合型か商業農業混合型である。いずれも盆地や平野の中心都市として農村をバックにした商業及び管理機能的中心をなしている。

常磐地方に常磐炭田に立地する鉱業型の都市が2市分布している。農業型が各盆地及び平野に普遍的に分布しているが、これらの都市の多くは戦後の町村合併によって市制を施行したもので、その核となった市街地は農村地帯の小中心地として商業サービス機能をもっていたものである。

#### 参考文献

- (1) Toshio Noh : The Cities in Tohoku seen from the  
Occupational Structure  
The Science Reports of the Tohoku  
University Geography No. 13 1964

- (2)(3) 横山 弘 : 宮古と釜石の都市構造 東北地理才19巻才2号 1967